



小田小だより

平成30年9月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号

TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

暑い夏に 熱い学び ～主体的・対話的な学びを目指して～

校長 村上 裕江

例年以上に暑い夏の日々が続きますが、子どもたちが元気に学校に戻ってきました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、夏休み中の子どもたちの健康管理や交通安全にご配慮くださりありがとうございます。各自治会、町内会の夏祭りなどで出会う子どもたちは、学校とは少し違う面を見せながら、地域で楽しく過ごしている様子がとても印象に残りました。あたたかい雰囲気の中で育まれていることに改めて感謝いたします。

7月最後は、横浜でも歴史的な暑さを観測する中での学校生活でしたので、子どもたちの学習も冷房の使える教室内で可能な限り行うようにし、水分補給の放送を随時入れ、必ず水分補給をするように促し、経口補水液も常備するなど様々な対応を行って参りました。今後も、まだしばらく暑い日が続きます。運動会の練習も始まります。子どもたちの健康と安全に、全職員で注意しながら、残暑を乗り切って参ります。

さて、夏休み中に、前年度よりお知らせしていた、エレベーターと特別教室エアコン設置の工事が始まり、ご来校の際にはご不便をおかけしております。長期にわたる工事となります。よろしくお願いいたします。

夏休み期間中、教職員は各教科・領域に分かれて、昨年3月に公示された「新学習指導要領」実施に向けた研修を行って参りました。横浜市は、「社会に開かれた横浜らしい教育課程」を目指しています。本校でも小田小学区の地域の特性をふまえて、学校教育目標を生かす教育課程作成を進めています。

本校教育課程の中心理念は、学校説明会や学校運営協議会でご説明申し上げた「協同的な問題解決に向けて主体的・対話的に学び合う子ども」の育成と、小中9年間を見通した「コミュニケーションを通して社会や自分の未来を創造しようとする子ども」の育成です。目指す子ども像の鍵となるのは、「主体的・対話的な学び」をどのように生かすことができるかです。「主体的・対話的な学び」という文言を昨今の教育関係の新聞記事などで時々目にするのですが、「主体的・対話的な学び」について皆様はどんなイメージをおもちでしょうか？

「主体的・対話的な学び」のイメージということ、活発な話し合いのイメージを思い浮かべる方もおられるのではないかと思います。子どもたちが進んで話し合っていく中で学習を深めていく……。子どもたちの元気な話し合いの音が教室に響く……。そんな映像がイメージとして浮かぶのではないかと思います。しかし、「深い学び」に至る「主体的な対話」は、子どもたちが、目的意識をもって様々な考え方を対等に尊重しながら解決の方向を探っていく過程です。資料や教科書等から「自分の価値観に基づいて課題の対象と心の中で対話」する。「ほかの人の様々な考えと対話」する。そして、「自分の今までの考えの変化と対話」する。この3つの対話の過程を繰り返して思考を深めていきます。この3つの対話を繰り返すという「学び方」を身につけていくことが、これから目指す学習の姿です。5月に6年生と国語の授業をしたとき、この3つの学び方を簡単に説明し実践しました。そのときの6年生にも見られましたが「主体的・対話的な学び」の姿には、話し合い以外に、じっと教科書を読んだり自分の考えの変化を書き留めていたりする静かで黙々と思考している姿もあるのです。

子どもたちが、未来を自分の考えで創造的に活躍できるように、この夏の研修を生かして、教職員一同新たな思いでまた、子どもたちと学びを深めていくよう努めて参ります。よろしくお願いいたします。